

年頭のごあいさつ

幌延町長 宮本 明



新年あけましておめでとうございます。

平成24年の輝かしい新春を、町民皆様、健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年、わが国はかつて経験したことのないほどの大地震と大津波、そしてそれに続く原子力発電所の事故を目の当たりにし、自然の脅威と科学技術の進歩に潜む恐ろしさを実感させられました。被災地東北では、これから更に厳しい冬を迎えますが、支え合いながら頑張っておられる皆様に敬意を表しますとともに、一日も早い復興を願って止みません。

さて、このような状況の中、幌延町におきましては4月の幌延町生涯学習センターの開所、10月の幌延町立診療所及び幌延町立歯科診療所の開所と、大きな施設が相次いでオープンいたしました。施設建設にあたっては、太陽光発電を一部取り入れるなど、環境にも配慮しております。町民皆様の生きがいづくり、子育て支援、コミュニティ活動の場として、健康を守る拠点として、役立てていただ

ければと思っております。

昨年は大震災の後も、猛暑やゲリラ豪雨、国内外で頻発する地震など、天災に悩まされた1年でした。また、経済的にもギリシャに端を発したユーロ圏の金融危機などにより、世界的な経済不安が懸念されています。

このような中、政府はTPP交渉への参加を表明しました。今後、例外品目など議論が深まっていくことと思いますが、町の基幹産業である酪農を守るため、幌延町農業協同組合をはじめとする関係機関と連携を取りながら、必要な活動を進めてまいります。

深地層研究センターの研究につきましては、昨年の福島原発の事故以来、原子力政策を取り巻く環境が厳しくなっています。いずれにしても今現在、原子力発電が行われている以上、高レベル放射性廃棄物の処理処分は絶対に必要なことであり、その安全な地層処分のための研究が求められていることは言うまでもありません。センターにおかれましては、順調に研究を進めていただいております。

本年も町では、計画的に進めてきている町道のバリアフリー化も含めた改良事業を継続して実施するほか、幼保一元化を目指した認定こども園の整備に向けたより具体的な検討や、新たな農業基盤整備事業の採択へ向けた要請活動など、町民の皆様の安心と安全、住んでいて良かったと思えるまちづくりのための施策を進めてまいります。

また、新たな試みとして、中学生以下の医療費の無料化、地域振興プレミアム商品券への助成などを検討しています。

幌延町が目指す協働のまちづくりは、町民の皆様のご理解、ご協力、ご提言があつて実現されるものです。昨年全戸に設置いたしました告知端末機「知らせますケン」などをより一層活用し、情報の共有化を図ると共に、対話とふれ合いのある幌延町をつくってまいります。

新しい年を迎え、心も新たに町職員一丸となって町政の推進を図ってまいりますので、町民皆様も「幌延丸」の一員として、一緒にまちづくりに参加くださいますようお願いいたします。

平成24年が幌延町と町民皆様にとって、素晴らしい飛翔の年となりますようご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。

平成24年 元旦